

第6回 浦河町総合計画審議会議事録

開催日時 平成29年3月28日(火) 13時30分～15時45分
開催場所 浦河町役場 2階 大会議室
出席委員 17名(早坂誠会長、小林司会長職務代理者、武田宗務委員、神原大輔委員、齋藤善厚委員、富田貴憲委員、新保雄司委員、富永孝幸委員、木内稔委員、上田正則委員、上新雅人委員、小林孝範委員、津澤静子委員、小林美代子委員、村下知宏委員、杉山綾子委員、野上由佳委員)
欠席委員 7名(菅正輝委員、高村祐太郎委員、遠山寛委員、土谷進委員、濱谷雅樹委員、永田善美委員、三浦敦子委員)
浦河町出席者 3名(柳谷企画課長、葛西企画課主幹、荒木企画課主査)

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議

資料3：基本計画(案)「政策Ⅱ健やかにまちづくり」の修正箇所について事務局より説明

【A委員】 P25、4. 乗馬療育の推進で、今すぐは無理でも「乗馬療育用乗馬の育成、調教などの推進」の部分に、生産を入れておいてもいいのではないかと思います。それと、P28、医療体制の整備の目標値の部分で、アンケートでの満足度以外に具体的な医師数や診療所数など、カウントできるものがあってもいいのではないかと。

【事務局】 医師数は難しい。担当課でもがんばっているが、町ではどうにもできない部分がある。

【B委員】 質問だが、P26の新たに追加された目標値の「妊娠・育児中の親の喫煙率(父・母)」について、非常に多い印象を受けたが、浦河町においては、喫煙率はこれくらいなのか。

【事務局】 年度によって違う。浦河町全体での喫煙率、調べてはいないが、都市部より北海道の方が、喫煙率が高い。全国平均で男性の喫煙率は30%。それに比べると、浦河町の喫煙率が高いと思う。

【B委員】 それをいきなり(H33目標値)0%にするというのは少し無理があると思うが。

【事務局】 やはり子どもにとってはゼロじゃなきゃだめだということで、厳しいかもしれないが、目標値もゼロにさせてもらった。

第7次浦河町総合計画基本計画(案)政策Ⅲ「活力を生み出すまちづくり」(P58～)

施策④商工業の振興(P58～61)について

【B委員】 P59のグラフのうちの卸売業と小売業の年間販売額のデータについて、平成24年が最後になっているが最新のものはないのか。

【事務局】 商業統計調査のデータで26年のものが最新であるが、時系列で比較できないデータになっているので、あえて24年で切らせてもらった。

【B委員】 ここだけ急に古いデータになっている。非常に大切なデータだと思うので、商店数はきちんと把握しておくべき。

【事務局】 商店数は記載できるデータを載せる。

【C委員】 P58の商工業の発展、現況の分析はその通りだと思うが、商店街の空洞化というのは、日本全国であることで、基本的には消費人口が減っていることが一番の問題。人口が増えない限り、どんな施策をとっても難しい。消費人口が減って、大型店舗ができて何でも買えるというところがあれば、利用するのは当たり前。大量に仕入れるから、当然安くもなる。そういうところとまともな競争をして勝てるわけがない。オンリーワンで、あそこの店でしか扱ってない、そこにしかないものでない限り、薄利多売の方に消費者はどうしてもいってしまう。商工業の振興を図るには、国、道含めて町は、いろんな施策、情報をタイムリーに提供し、中心市街地に、店が飛び飛びであるのではなく、どこかの一角を全部駐車場にするとか、そういうものを集積するなど、商店街などが一緒に考えなければ商業の活性化や地域の創生にはつながらないと思う。本当に地域内循環を促すなら、ある分野を単独でとらえるのではなく、農商工の連携を深めるようなかたちでいかないと、非常に難しいのではないか。地域の本来あるべき産業は何なのかということ考えた時に、商工業者は、一次産業を大事にしながらかやらないと商工業者も成り立たない。P61めざす目標値で「買い物の便利さ」についての満足度があるが、そういうことではなく、もっと違うような指標をつくらないと。どんどん店が減っているのに、満足していますか？という質問の仕方は今後10年間の方向性を考えた時に、もっと別の指標だとかをした方がいいのではないか。こういうものについては、もっとシビアにあからさまに書いた方がいいと思う。

地元で産業、雇用の場がないから、みんな出ていく。将来、子ども達が地域に戻ってきたときに彼らの能力を活かせるように、雇用の場をつくるというのを地域にいる大人が考えなければ。町予算で、浦河で起業した人には補助するとか、浦河高校を卒業した子どもを新規に採用した企業に補助するなどあるが、かえってそういう方がインセンティブにつながるのではないか。ただ自然がきれい、美しい、気候が温暖だといっても、北海道は全部そう。浦河というのは一体何なのかということ考えた時に、やっぱりそこに住んでいる人がもっと真剣に考えなければ。ずっとこのまちに住んでいる人はなかなかアイデアが出ないが、移住されてきた人や他のところを見てきた人、他の地区で育ってきた人は、客観的に見てくれる。いいところも悪いところも含めて。そういう人たちの意見は大事にすべき。

【事務局】 様々な問題が山積している中で、どうやってお店を残していくか。掘り下げて考えていかなければならない。

【D委員】 めざす目標値、買い物の便利さについて、高齢化により車に乗れなくて不便さを感じるのであれば、交通網を整備するなり、宅配便の整備をすすめて、買物の便利さにつなげていく。買い物の便利さという目標値を掲げるのであれば、その便利さを達成するための施策をいれたほうがいい。補助制度により新しい事業者の積極的な起業をめざしているのであれば、新規もしくは第二創業者数を新たな目標値を入れてもいいのではないか。商業の環境整備のところで、大通を中心に行けるかということを含めて、各地域で集客力を高める努力をするというように目標値を掲げることができるのであれば、そのほうがいい。

【E委員】 私が引っ越してきて、浦河のよいところは小ささだと思う。中心の大通に文化会館、図書館があって、大黒座もあるし、各商店もある。新しく創業したい人を援助するなら、Mi0の中の空き店舗に入ってもらって、浦河独自のお店や新しいご当地特産品など特別なものを集めてはどうか。日々の生活に必要なものは、地域の商店や移動販売車など使いやすい方向で分けて、まちづくりをしていかないと高齢者も住めない町になると思う。いつか私たちも運転ができなくなるし、自分の地域で生きていけるようなまちづくりをめざさなければ。東日本大震災のときに浦河にいたが、災害時でもガソリンがなければ車で買い物に行けないし、やはり徒歩で行けるところに小売業をやってくれている人がいるから生きていけるとすごく実感した。子どもたちもおつかいに行けるとか、そういうところから町の人たちとのつながりが出来るし、それぞれの地域でもっと小さなコミュニティで生きていけるようなまちづくりを基本にしては。

【C委員】 本当の意味での地産地消は、大型店などもある中で上手く商品が回るようなことが本当の産業の地域循環だと思う。一次産業の地産地消とは少し違って。どうせお金落とすなら地元で落としたいと町民がどのくらい思うか。都会は商品も豊富だが、普段の買い物、衣食住の特に食については、地元でという流れを上手く作るような仕組みを商店街などを含めて、真剣に考えるべき。これは、行政が考える事じゃなく利益を追求している商業者が考えるべきことだが、町は「こんな町にしたい」と思うための色々な政策や助成はできる。そういうことも含めて、商業者と行政が一緒になって取り組むべき。

【E委員】 中心市街地にシャッターが下りても中心は中心なので、元々のお肉屋さんとか靴屋さんとか揃っている。そこ全部が1つのお店と考えて、例えば、八百屋さんが今ないから空き店舗に八百屋さんをやってくれる人募集とか。そのように、足りない部分の穴を埋める手伝いを町にしてもらっていったらいい。東川町みたいにちょっと前から何かの拍子で移住者が来て小さなお店を開いたら、人が人を呼んで、今はすごくキラキラした町になっている。前に東川にいたが、そのころは小さいギャラリーが1つか2つしかなかったが、私が引っ越して何年かの間に、元々は水田しかなかった町が小さなクラフトをやる人や、自分で手作り品とかカフェとかをやる人たちの町に変わった。そういう人が人を呼ぶことを考えれば、始めにそういうきっかけのお手伝いを町がしてくれれば。お店出すにあたって資金を出してくれるとか。東川はそこが多分強い。まちづくりをしてくれる人を応援するということを前面に打ち出して、そうやって人が集まって、今子育て世代がたくさん移住している。旭川に近いという地の利を売りにして。浦河もそういう感じでやってみたらいいと思う。

【D委員】 商業の施設の再生という観点から、やっぱりMi0の生き残りというのも含めて、人が集まる、安く買えるようなイベントをやっては。上の駐車場で青空市でもいいので。それは行政も含めて、民間の力や商工会青年部の方々もいろいろ知恵を出しあって。青年部はレシート祭りなどもやっているの。Mi0ができてもう20年以上になるか？

【事務局】 平成7年オープンなので、もう20年以上経過。疲弊しているのは町民のみなさんも肌で感じていると思うので、何とか計画を少しでも前進させていければ。

【B委員】 大通界限で何か食事ができるところを教えてほしいと言われるが、15時ごろに外からお客さんが来た、あるいは月曜日に来られたときに本当に紹介する店がなくて非常に困る。都会

であれば商業原理が働いて、少しでも儲けるためにはこの時間開けたほうが良いと考えるのが普通だと思うが、人口が減って、外からのお客さんもそれほど多くないと思うと、そうなるのか。MiOの活用について話題になったが、町内のファーストフード的なものをMiOで提供するなど考えたり、工夫したりするなど、いろいろなことが考えられると思う。起業にお金を支援するというのもあるが、MiOで積極的に小さなスペースでどれくらい需要があるのか調査するなど、何か努力をしたほうが良い。

施策⑤の観光の振興（P62～65）について

- 【E委員】 アエルに大きい公園があるが、小学校高学年が行くと、大きい滑り台とゴーカートくらいしか遊ぶところがなくて非常にもったいない。もっと投資して大きい遊具を作ってもらって、あそこを一大公園に再生してほしい。観光施設として、親子も楽しめるという意味でも。
- 【A委員】 今、観光協会で行っている体験ツアーで、アイヌ文化の活用だったり染物の体験だったり、文化資源を活用したものがあると思うが、観光の部分でそういった文化資源の保全というか、アイヌ文化の担い手や伝統工芸的な物の担い手育成など、どう維持していくかが政策の中にあってもいいと思う。それとP65の2.③に、近隣地域を含めた周遊性のある観光ルートを形成するためとあるが、友人が本州から来るときに帯広空港のチケットを取られるとすごく困る。交通インフラが一切とっていいほどないので。浦河にアクセスするのがレンタカー以外だと今本当にきついで、そのあたりをどうするのか、交通インフラを含め、周遊性のある観光ルートを形成するというような文言があるといい。最後の目標値の部分の満足度だが、平均70点というのが高いのか低いかわからない。例えばもっとリピーター数やリピート回数など、もう少し実際に測れるような数字があってもいいと思う。
- 【B委員】 私が浦河に来たときに「サラブレッド観光と乗馬」というフレーズを聞いて、最初はピンとこなかったが、やはり浦河という町はサラブレッド観光と乗馬というのを非常に大切にしているなど今では思う。あと町民にとって観光の位置づけについて、ある意味浦河は観光地じゃないし、関係ないというスタンスの人が多くというイメージを受けている。そういう中でこれから10年の浦河町にとって観光というものをどのように位置づけるのかということをおの中に文章として書いてほしい。
- 【事務局】 この基本計画で、今後5年間でめざす姿を描いている。次にできてくるのがこの下位計画で、観光分野では来年度から2カ年で策定する観光振興計画。その中でより具体的な今後の方向性や観光部門としての理念が出てくる。
- 【B委員】 「サラブレッド観光と乗馬のまち」というコピーをそのまま使い続けるとか、あるいは新しいコピーに変えようとか、そのような話し合いでは？
- 【事務局】 浦河のキャッチフレーズは「丘と海のまきば」。ただ観光部門として、私の記憶違いでなければ今から20年以上前に、観光協会や各方面の方が集まって、観光としてキャッチフレーズをつくらうということで、できたはず。それをずっと使っており、それを改めるとの話は今のところないと思う。
- 【A委員】 P68以降にある日高王国について、計画では地域交流の部分に入っているが、本格的に民泊を副業にしてみようとか、ある程度の収入源にしてみようなど産業にしていけば、

地域交流ではなく、観光振興の部分に日高王国事業、民泊事業って入れたほうがいいのでは。

【事務局】 非常に迷ったところ。

【A委員】 両方に関わってくるとは思うが。

【事務局】 民泊の簡易許可をとって受入体制は整っているが、受け入れ側が、修学旅行だけならいいという部分もある。事務局でもアンケートをとったり、説明にまわったりしているが、この5年ではそこが見えなかった。

【A委員】 率直な感想だが、移住の部分と観光はすごく密接。体験移住もすごく好評なので、長期滞在の方からもうちょっと普通にお金をもらって、長期滞在の観光してもらおうとか移住のノウハウを活かした観光やりますみたいな文言があってもいいのかなというのが素朴な感想。

施策⑥雇用環境の充実（P66～67）について

（意見なし）

施策⑦交流・連携の推進（P68～71）について

【E委員】 日高王国、民泊に関する質問だが、自分も受け入れたい思いはある。ただ、第一次産業をやっている方のお宅に泊まって体験するのが民泊だと思うが、実際に受入側の反応や協力はどうか。

【事務局】 受け入れ家庭の対応も様々。ただ、ここに実際受け入れているF委員もいるが、生徒が帰るときになると、感動の連続ですよ。

【F委員】 大変な面もやはりある。計画を立てて、仕事を与えられるわけではないので。天気次第で思っていた仕事をやらせることができなかつたりしたら本当に大変で、食事の用意も大変なようだ。

【E委員】 時間を割いてやっているって感じ？

【F委員】 思ったより仕事ができないなど苦勞もあるが、交流はやはりおもしろい。生徒たちの反応みたりするのもおもしろいので、そういうのはいいところ。いい面と悪い面がある。

【E委員】 広報にチラシが入っていたので、民泊先が足りているのか、足りていないからチラシを出しているのかなと思って。

【事務局】 足りてない。高齢でもうできないって方もいる。去年の4月から制度が緩和され、一般の方と第一次産業の方がセットで申請すれば許可がおりるようになった。今、最大160人くらいしか受け入れできないので増やしたい。

【A委員】 P71の国際交流の推進について、隣町ではALTの方を上手くいろいろと活用した事業等を行っているので、ALTの学校授業外での活用といった部分を国際交流に入れてもいいのでは。移住の部分のめざす目標値について、移住世帯数とかで測るだけではなく、本文には書いてある生産年齢人口や子育てをする方であったりとか、どういった仕事、例えば医師とか看護師さんだったりとかに重点をおくのかだとか、年代的にどの年代にターゲットをおくのかだとか、そういう移住推進計画じゃないですけど、どういったターゲティングをして、移住推進していくのがどこかに書かれてもいいと思う。あと移住の部分でよく聞くのが、実際に住むとなったときに家がないという話はよく耳にする。空き家バンクされているが、それ以外

の部分でも定住環境の整備みたいなことを触れてもいいのでは。

【G委員】 体験移住は、受皿がなくて申し訳ないけど断っているという話聞いたことあるが。

【事務局】 夏についてはお断りしている。ただ、3～4ヵ月の利用で今の料金設定では、民間では維持できない。それで、28年度にかけて冬の対策、重点的な冬の対策と、春秋PRということで冬のDVDを作成した。もっとPRして、せめて体験住宅で8ヶ月くらいの稼働になれば、民間でもまだやっていただけるのではないかと思う。

【C委員】 何人かでシェアみたいな形であれば、例えば5年間で4人なら、今年は私と私が夏場の3ヶ月ずつ使いますと。次の年は、私たち冬使いますと。そういうことで通年使ってくれるなら、民間事業でもペイできるかもしれない。そういう環境整備をしなくて、いきなり民間事業といたって無理。なので、空き家リフォーム補助などのやり方が一番いいと思う。

【A委員】 P70にインターンシップとか雇用のマッチングがあるが、雇用の部分にこういった文言一切出てこないの、P66～P67の部分で人材確保のところ、例えばインターンシップを受け入れたい事業所を募集するだとかマッチングしますみたいなことが、移住のほうじゃなくて雇用のほうにあってもいいのでは。

施策⑧広域道路・交通網の整備（P72～73）について

【C委員】 ここはやはりJR日高線だが、早期復旧は現実的に難しい。復旧だけならお金を出せばすぐ出来る。問題はその後、路線をどうするか。

【事務局】 現状、地域間交通をどうするといったときに、やはり交通手段としての鉄道は大事。今は走らせることが一番。願いを込めてここに書いた。

【C委員】 JRは要望だからいいが、それよりも大事なものは、交通弱者といわれている人達の地域間の交通手段をどのように確保するのかを両面的にやってかないと。

施策⑨の海上拠点の整備（P74～75）について

【C委員】 今年、上架施設ができるのでだいぶ違う。

【事務局】 だいぶ違うと思う。オリビンも含めて、今持ってきている土も含めて、それから、今度カラマツも減るってということで、港湾として使われだしている。

4. 閉 会